

## 達成動機尺度が作業参加，生きがい感，役割意識に与える影響

—地域在住高齢者に対する横断的調査による検証—

## Effect of achievement motive on occupational participation, the concept of "ikigai" and role expectations

○佐野伸之 (OT)<sup>1,2)</sup>, 京極 真 (OT)<sup>3)</sup><sup>1)</sup>吉備国際大学大学院保健科学研究科博士課程, <sup>2)</sup>株式会社アール・ケア, <sup>3)</sup>吉備国際大学大学院保健科学研究科

Key words: (達成動機), 生きがい, (作業参加)

【序論】作業療法においてモチベーションが重要視されるが，実際にはどのような効果が期待できるのだろうか？現在，地域在住高齢者のヘルスプロモーションが急務となっている状況で，自分にとって価値のある目標をやり遂げようとする達成動機は，自分の大切な活動に取り組むこと（以下，作業参加）や健康関連QOLへ正の影響を与えることが明らかとなっている（佐野，2014）．さらに，達成動機によって作業参加が進むということは，自分の役割を獲得させ，役割達成感を含むQOLの概念である生きがい感へも肯定的に関与することが予測される．

【目的】本研究の目的は，地域在住高齢者の達成動機が作業参加や生きがい感，役割意識に対して与える影響を検証することであった．

【方法】対象者は，デイサービスを利用する地域在住高齢者281名（男性127名，女性154名，平均年齢77.1±8.7歳）で，大学倫理審査及び施設の承諾と対象者から同意を得た上で調査用紙を配布し，自記式に回答を求めた．調査用紙は達成動機を評価するSAMR，作業参加を評価するSOPI，生きがい感を評価するK-I式，役割チェックリストを参考に役割意識を評価するフェイスシートから構成された．分析方法は，達成動機と作業参加，生きがい感，役割意識の相関を確認するため，HADを用いて各尺度の合計得点や下位尺度得点のポリコリック相関係数を算出した．また，Mplusを用いて達成動機から作業参加，生きがい感，役割数へパスを引く構造方程式モデリングの多重指標モデルの適合度（CFI，TLI，RMSEA）を算出し，これらの因果関係の検証を行った．

【結果】SAMRとSOPIの合計得点や下位尺度得点には中等度から弱い相関（0.19～0.49）を認め，SAMRとK-I式にも中等度から弱い相関（0.25～0.54）を認めた．また，SAMRと役割意識の役割数と弱い相関（0.20～0.31）があり，友人や宗教，趣味，組織への役割意識とは中等度から弱い相関（0.27～0.41）があった．因果関係の検証では，達成動機が作業参加や生きがい感，役割意識に正の影響を与えるという仮説に基づくモデルを算出し，適合度と修正指標を参考にモデル修正を行った．その結果，SAMRの項目9と項目10に誤差相関を想定することで，適合度は良好となった（CFI=0.985，TLI=0.984，RMSEA=0.049）．達成動機の直接効果は，作業参加へ0.429，生きがい感へ0.405，役割数へ0.398であった．作業参加から生きがい感へは0.217，役割数から生きがい感へは0.234であった．達成動機から生きがい感への間接効果は，作業参加を介すと0.174，役割数を介すと0.093であり，総合効果は0.672であった．

【考察】本研究の結果から達成動機は作業参加や生きがい感，役割意識と関連しており，自宅以外での社会的な役割意識との関連が強いことが明らかとなった．また，達成動機が作業参加や生きがい感，役割意識に正の影響を与えられる要因となり，特に生きがい感には作業参加や役割意識の向上に伴う効果も期待できることが明らかとなった．これは，目標に向かう意欲が高まることで自分の大切にしている活動に関わりやすく，社会とのつながりや役割を自覚できることで，人の役に立つような存在として生きていく張り合いが得られやすくなる可能性がある．本研究の知見は，作業療法士として対象者と明確な目標の共有を図り，それをやり遂げようとする達成動機に介入する重要性を示し，そのような介入によって対象者のヘルスプロモーションに貢献できると考えられた．